

令和四年第五回議会定例会一般質問

「電気料金高騰対策を！」

田中大

LED化に向けた町民に対する補助制度の創設を

原油価格の高騰や急激な円安進行などを受けて、電気料金の値上げが顕著となってきており、さらには2月の食料品など5,000品目を超える値上げで、自治体、事業者、家庭のお財布を圧迫しておりますが、東北電力から4月より30パーセント以上の電気料金値上げのお知らせが届き驚いているところであります。

仮に、これまで年間の電気料金が12,000円と仮定した場合、実に年間で36,000円以上の負担増となります。オール電化住宅においては、実質負担額は年額で十数万円、住宅の規模によっては数十万円の負担増も見込まれます。

こうした中、全国の自治体に目を向けてみますと、住宅用LED照明器具購入費等に対して補助を行っている自治体が見受けられます。

埼玉県坂戸市の「住宅用LED照明器具購入等補助制度」、和歌山県御坊市の「住宅用LED電球等購入費補助」などが参考になります。このうち坂戸市では、LED照明器具購入費を1台あたり2分の1以内、上限額1台5,000円。LED照明器具改修工事費を1台あたり2分の1以内、上限額1台7,000円となっております。また、いずれも市内の電器店で購入か、市内の電気工事店等で購入又は交換工事という条件となっております。

2015年施行の「水銀による環境の汚染の防止に関する法律」では、2021年1月以降、水銀を使用した製品のうち、基準を超えるものは規制の対象となり、製造できなくなりました。実は蛍光灯にも水銀が使われており、蛍光灯器具と蛍光灯でも水銀の使用料が基準を上回る場合は規制の対象となりました。2030年までに全ての照明器具をLED照明にするという国の目標も影響し、2017年頃から、各メーカーが自主的に蛍光灯器具の生産を終了しています。なかには蛍光灯の製造を止めるメーカーもあり、蛍光灯が入手困難となる日がやってくるかもしれません。

さて、LED照明は、発光ダイオードを使用した照明器具であり、21世紀の明かりとして登場しました。このLED照明器具は、低消費電力、そしてまた長寿命といった特徴を持っている照明器具であることは、皆さまも御存知のことでしょう。LEDの消費電力は白熱電球の約20パーセント、蛍光灯の約30パーセントと言われております。寿命も白熱電球は約1,000から2,000時間、蛍光灯は約6,000から12,000時間であるのに対し、LEDの光源寿命は約40,000から60,000時間となります。仮に40,000時間のLEDを1日10時間点灯、年間3,000時間点灯したと仮定した場合、10年間は寿命が持つということになり、白熱電球の数十倍、蛍光灯の数倍も寿命が長いということになります。

LEDの最大のメリットは低消費電力により約34パーセントの省エネ効果が見込まれることです。長寿命で電力消費量の少ないLED照明は、従来の照明に比し大幅なコスト削減が可能になります。インシタルコストはかかりますが、ランニングコストが低いため、比較的短期間で費用を回収することが可能です。また、LED化によりCO₂の排出量削減にもつながります。

町内の電気関連事業者にお話を伺ったところ、既存住宅のLED化改修工事は件数が右肩上がりが増えてきているとのことでした。また、店舗照明のLED化改修工事を行った事業者は、毎月の電気料金が大幅に減額になったと言っておりました。

しかしながら、LEDにもデメリットはあります。インシタル

コスト（初期費用）が高いという点です。最近では改良や価格競争が進んだことで、LEDの価格も下がってきておりますが、従来の照明器具に比べ、LED照明自体の価格は高めに設定されていることから、一気にLEDに交換する場合は初期費用が負担となります。

LED化によるメリットとデメリットを比較した場合、明らかにメリットの方が上回っていると考えられますので、電気料金高騰対策に加え、CO₂削減にもつなげるため、我が平内町でも埼玉県坂戸市や和歌山県御坊市の補助制度を参考に町独自の補助制度を創設すべきと考えます。補助対象は、事業所、住宅、集合住宅が想定されますが、以前の田中茂勝議員の質問に対する答弁にもありましたとおり、新庁舎は別にして、町の公共施設や学校のLED化もあり進んでいないとのことでありました。LED化促進については町が率先して取り組むことで、一般家庭のLED化に拡がっていくものと考えられます。

そこで、LED化に向けた町民に対する補助制度の創設と町公共施設のLED化の見込みについて、町の考えをお伺いします。

町 長

現在の町の財政状況では、難しい

町公共既存施設は、ほたて広場は、全面LED化済みであり、全面ではありませんが、平内中央病院は照明の多くをLED化、役場庁舎においても、LEDと同様に、省エネ効果の高い照明であるE-COOLを事務室等に設置しております。

さらに加えて、令和5年度では、町立体育館のLED化実施のための工事費用として、約3千万円を当初予算に計上したところであります。このように、町公共施設の全面LED化につきましては、各施設において異なりますが、LED化にかかる初期費用が高額になるケースも見られることから、町公共施設においてLED化未実施または一部のみの実施と、全面实施が多くの施設で出来ていないのが現状であります。いずれにしましても、既存照明である水銀灯や蛍光灯については、各メーカーとも製造中止や生産縮小などで、いずれは入手できなくなっていくことから、LEDなど、省エネ効果の高い照明への移行を今後も計画的に進めていく所存であります。

次に、役場庁舎等、町の公共施設においても、前年同月比で、約3割を超える電気料金請求があり、厳しい財政運営を強いられているところでもあります。さらに、令和5年4月以降にも、電力会社より再度、電気料金の値上げの通知も届いていることから、現在の町の財政状況においては、町民へのLED化の補助制度の創設につきましては、たいへん難しいものと考えているところであります。町民の方へは、住宅をリフォームする際に、住宅全体のLED化は難しいとしましても、頻繁に利用する居間や台所などの照明器具のLED化については、すでに、事業予算化されている「平内町地域活性化住宅リフォーム支援事業補助金制度」の活用をお願いしたい。

田中大

省エネ家電購入補助も視野に入れてほしい

私の今回の一般質問は、LED化をメインとした質問でした。オール電化住宅に住んでいる方からも、お話を聞く機会がございまして、「蓄熱暖房機は電気代がかかるから、思い切って省エネ寒冷地用エアコンに変えたら、昨年同月比で、電気代が数万円安くなった」との声をいただきました。電気料金高騰対策として、LEDのみならず、省エネに資する家電等購入や入れ替えへの補助も視野に入れて検討下さいますようお願いいたします。

町政へのアイデア、ご提案、ご要望募集中！

皆様から頂いたお声は、議会での質疑や担当課へ直接要望するなど、責任をもって町へ届けます！

電話 017-763-0170 FAX 017-755-4295 携帯 090-3125-8752

メール tanakada_0525@yahoo.co.jp

※この新聞は後援会討議資料です

平内町
議会議員

田中だい通信

さらに前進！明日に取り組む！未来を創る！

夢も希望も大！
スローガンのもとでさらに前進！

目 次

- 1.二代目石川久美子社中W受賞おめでとうございます！
- 2.ラインによる行政サービス始まる
- 3.知事選挙 宮下宗一郎さんを支援します
- 4.視察研修報告

- 5.天然記念物指定100周年
- 6.経済文教常任委員会所管事務調査報告書
- 7.医療用補正具購入助成制度 始まる
- 8.電気料金高騰対策を！

二代目石川久美子社中^{ダブル}W受賞おめでとうございます！

二代目石川久美子社中は、令和4年10月に神奈川県で開催されました民謡民舞全国大会において、20回目の民舞内閣総理大臣賞を勝ち取りました。また、全国各地において、芸術文化の振興、文化財の保護等、地域文化の振興に功績のあった個人及び団体に対して、文部科学大臣が表彰する、地域文化功労者文部科学大臣表彰を令和4年11月に受賞されました。

血が滲むような努力に対し、敬意を表します。誠におめでとうございます。



ラインによる行政サービス始まる

当町でも、ラインによる行政サービスが始まりました。年配の方々には、難しいと感じると思いますが、利用には、スマートフォンを購入しラインアプリをダウンロードする必要があります。興味をお持ちの方々には、私が説明に伺います。

これがデジタル行政の第一歩です。皆さん、ぜひこの波に付いてきてください。



知事選挙 宮下宗一郎さんを支援します

5月18日告示の青森県知事選挙において、私は予ねて交流があり、政治理念が一致することといたしました。

青森県の未来を選択する選挙です。皆さんも棄権せず投票に行きましょう。



視察研修報告（岐阜県大野郡白川村）

期間：令和5年1月16日（月）～1月18日（水） 場所：岐阜県大野郡白川村

視察地概要

周りを山に囲まれた小さな村で、行政区内の95%は山林で、農地は0.5%しかなく、気候は飛騨寒地多雨型で、冬季4～5か月間は積雪という豪雪地帯で、特別豪雪地帯指定を受けております。南の岐阜県側は高山市、飛騨市、北の富山県側は南砺市、西の石川県側は白山市と隣接した村で、人口1,510名、高齢化率32.85%という、いわば過疎の村です。この過疎の村に、年間215万人もの観光客が押し寄せます。それは、白川郷合掌造り集落が1995年にユネスコ世界遺産（文化遺産）に登録されたからです。



○白川村の生き残り

平成の大合併の流れの中、白川村も飛騨地域の全ての市町村で結成した「飛騨地域合併推進協議会」にも参加していましたが、近隣市と合併することで「白川郷」のイメージが損なわれるのではないかとという声に押され、2003年には合併協議会から離脱し、村単独で生き残ることを決定しました。その為、現在、岐阜県北部の飛騨地域で唯一の町村となっています。白川村では、戦後のダム建設ブームで多くの合掌造り集落がダム底に水没、1960年代中期以降の高度成長時代には合掌造り家屋が村外に売却されたり、近代的家屋に建て替えられたりもしたそうです。村内萩町住民有志により1971年、「白川郷萩町集落の自然環境を守る会」が結成され、合掌造り家屋の保存のため「売らない、貸さない、こわさない」という住民憲章を制定し、合掌造り家屋と景観を保存してきたそうです。こうした活動の結果、1995年のユネスコ世界遺産への登録につながったのであります。

村が単独で生き残れるのは「白川郷」観光がもたらす観光関連収入に加え、補助金、交付金収入により、村単独で生き残ることができているようであります。

○世界遺産「白川郷」とは

世界遺産に登録されたエリアは、岐阜県と富山県にまたがる「白川郷・五箇山の合掌造り集落」をいいます。「白川郷」は、岐阜県内の荘川流域の呼称で、大野郡白川村と旧荘川村にあたる地域です。なお、「五箇山」は、5つの谷間の総称です。



感じたこと

- ・役場職員には、移住者が多く、「外からの意見」を大事に観光施策をすすめている
- ・インバウンド消費を抱え込むために、白川モデルともいえる独自のキャッシュレス決済システムを導入している
- ・観光＝合掌造り保全活動となっている
- ・村の観光を教育にも取り入れ、教育特区として工夫した教育をすすめている
- ・合掌造り集落を保全するため、景観保存基準を設けるなど、ルールづくりを積極的にやっている

まとめ

観光で成功している地域には、必ずキーマンという方が存在する。そのキーマンはなぜキーマンとなっているか、「情熱のあるリーダー」であるからである。平内町の観光資源は、素晴らしい。だけど、この素晴らしい観光資源を活かしきれていないのが、平内町の実情ではないか。「情熱のあるリーダー」の発掘が急務である。

天然記念物指定100周年

2月12日開催されました「ハクチョウのまちシンポジウム」にて大いに学ぶことができました。来年度は、日本白鳥の会全国大会が、平内町で開催予定であります。それまでには、しっかりと「小湊のハクチョウおよびその渡来地」について学んでまいります。



経済文教常任委員会所管事務調査報告書

日時：令和5年2月1日（水）13時半から 場所：役場3階議員控室

案件：新型コロナウイルス感染症流行下での病院事業について

報告

1. 発熱外来棟設置下での運営

令和2年9月から設置
予約制で、診療後15分の換気・拭き上げ消毒実施
最大50件/日（ドライブスルー方式）
陰性・陽性ともに会計は2週間後
院内処方
時間・空間分離の重要性
夜間・休日の対応の難しさ

2. 現行の発熱外来の運営

7波に備えて診察時間を13時半から15時半と30分延長
インフルエンザとの同時流行に対する対策を再確認
業務の相互分担を推奨

3. 新型コロナウイルス感染症流行下での病院事業

院内感染対策マニュアル作成
アナフィラキシー発症者への対応
院内換気の徹底

感想

我々には理解できないほど、医療従事者は精神的・身体的に苦勞しているとのこと。ここ3年間、プライベートや職場交流でも行動制限を受けていることから、職場でのストレスチェックの結果は、高値であり、心身ともに大変な毎日を送っているそうです。医療従事者が安心して職務に専念できるよう、国・県にも、効果的で実効性のある対応をしっかりと考えてもらう必要があると実感させられました。

最近は減少傾向に見受けられますが、我々も油断すること無く、症状を感じた場合は速やかに発熱外来に予約し、正確な診断・対処を受けることが必要不可欠であると感じました。



成果あり! 医療用補正具購入助成制度 始まる

令和3年12月の議会一般質問で訴えました、「医療用補正具購入への給付金制度」が令和5年度より始まることになりました。
これからも、町民目線の政策を訴えてまいります。

